

令和6年度 第4回 広沢小 学校運営協議会

令和7年2月21日（金）

13:30～15:30 開放教室

開会 開催要件（委員の過半数の出席）確認 <司会：教頭、記録：CSディレクター>

1 会長挨拶（杉浦会長）

2 校長挨拶（澤田校長）

3 議長の選出（委員の互選による）

4 前回会議録確認

5 熟議 <議長：平野委員 >

（1）学校関係者評価について（主幹教諭）

- ・学校が自己評価（子供・保護者・教職員のアンケート結果及び、その分析と改善策）の結果について説明
- ・学校の説明を受け、改善策について熟議

（2）来年度の学校運営の基本方針について（校長）

（3）学校運営協議会の自己評価

- ・学校運営協議会の取組についての振り返り

6 報告

- ・夢育やらまいかCS加算分の報告（教頭）
- ・学校支援活動の進捗について（学校支援コーディネーター）

7 連絡事項

- ・卒業式・入学式への御出席について（教頭）
- ・来年度の委員について（校長）
- ・来年度の運営協議会の予定日について（教頭）

第1回…5月15日（木）13:30～ 第2回…6月16日（月）13:30～

第3回…10月23日（木）13:00～ 第4回…2月17日（火）13:30～

閉会

学校運営協議会 年間計画

令和6年4月1日～令和7年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等	備考
1	令和6年 5月10日 金曜日 13:30～15:00 会議室	熟議テーマ (1)令和6年度学校運営の基本方針について (2)本年度の学校運営協議会の目標および取組について (3)広沢小見守り隊の取組について <input type="checkbox"/> 夢育やらまいかCS加算分についての意見書について	
2	6月17日 月曜日 13:00～15:00 会議室	熟議テーマ (1)「いじめ防止等のための基本方針」について ・説明と共通理解 (2)地域人材によるクラブ活動の取組について (3)学校評価アンケートの項目の検討について <input type="checkbox"/> 学校支援活動の近況	
3	10月16日 水曜日 13:00～15:30 会議室	熟議テーマ (1)学校支援活動の具体策について ・部活動(音楽部)の地域移行について (2)個別最適な学習と子供に付けたい力について <input type="checkbox"/> 全国学力学習状況調査の結果について	★学校運営協議会の自己評価表 ★委員の意見収集⇒学校への提出 締め切り日 11月8日(金) 教頭あて
4	令和7年 2月21日 金曜日 13:30～15:30 会議室	熟議テーマ (1)学校関係者評価について 学校の自己評価(結果、分析・考察、改善方策等)の説明 ⇒改善方策について熟議(この結果を学校関係者評価として提出)⇒協議会終了後、見直し⇒公表⇒次年度へ反映 (2)次年度学校運営の基本方針について 説明と承認 (3)学校運営協議会の自己評価 <input type="checkbox"/> 夢育やらまいかCS加算分の報告	★学校評価の自己評価、学校関係者評価は、教育総務課へ提出、学校HPIに公表 ★学校運営協議会の自己評価は、学校運営協議会会長から教育総務課へ提出、学校HPに公表 ★夢育やらまいかCS加算分の報告は、意見書、決算書を教育総務課へ提出

第4回 学校運営協議会出席者

学校運営協議会委員

会長	すぎうら いうじ 杉浦 友治
副会長	ひらの けいご 平野 圭吾
委員	やまだ たにかず 山田 谷一
委員	かわかみ れいこ 川上 玲子
委員	はしもと のりゆき 橋本 憲幸
委員	みやもと よしこ 宮本 慶子
委員	はしもと かずよ 橋本 かずよ
委員	ささき ともなり 佐々木 知成
委員	かとう いずみ 加藤 いずみ (学校支援コーディネーター)

学校支援 コーディネーター	やの たかえ 矢野 貴恵
------------------	-----------------

オブザーバー

学校

校長	澤田 強志
教頭	鈴木 俊彰
主幹	中村 敦
C S 担当教職員	渥美 彰三
C S ディレクター	石川 由美

浜松市教育委員会

教育総務課	鈴木 陽子
-------	-------



学校評価アンケートありがとうございました。

1 広沢っ子宣言と令和6年度の重点目標

- 宣言1 笑顔で気持ちのよいあいさつをし、マナーを守って行動します。
重点目標：自分から進んであいさつする子 (95%以上)
- 宣言2 相手を思いやり、友達にやさしくします。
重点目標：友達を大切にする子 (90%以上)
- 宣言3 自分の夢をかなえるために、進んで勉強します。
重点目標：勉強が楽しい子 (85%以上)
- 宣言4 チャレンジしたことを最後までやり抜きます。
重点目標：目標に向かって頑張る子 (95%以上)
- 宣言5 命を大切にし、けがや病気に気をつけて生活します。
重点目標：病気やけがに気を付けて生活する子 (90%以上)



* () 内は重点目標に対しての数値目標

2 アンケート結果 (児童)

☆ 児童の評価

* 集計結果は、「あてはまる」、「だいたいあてはまる」を合わせた数

	番号	設 問	R5	R6	R5との比較
宣言1	1	わたしは 家族や友達、先生に進んで気持ちのよいあいさつをしている。	91.5%	89.9%	-1.6%
	2	わたしは、正しく廊下や階段を歩いて、落ち着いて生活している。	81.4%	75.9%	-5.5%
	3	わたしは、学校のために進んで清掃や委員会活動に取り組んでいる。	76.5%	83.5%	+7.0%
宣言2	4	わたしは、丁寧で温かい言葉遣いをしている。	86.2%	81.2%	-5.0%
	5	わたしは、進んでかがやきレターを書いたり、友達のよいところを見付けたりしている。	66.8%	62.6%	-4.2%
	6	わたしは、いじめをしないで、友達を大切にしている。	96.0%	93.3%	-2.7%
宣言3	7	わたしは、勉強が楽しい。	78.2%	81.8%	+3.6%
	8	わたしは、見通しをもって計画を立てたり、振り返りをしたりして課題を解決している。	80.8%	81.1%	+0.3%
	9	わたしは、計画的に家庭学習に取り組んでいる。		86.2%	
	10	わたしは、クロムブックや図書を使って、進んで調べたり、まとめたりしている。	80.0%	74.8%	-5.2%
宣言4	11	わたしは、今の勉強がこれからの生活や将来に役立つと感じている。	91.5%	91.3%	-0.2%
	12	わたしは、自分のめあてに向かって最後までやり抜いている。	92.7%	90.9%	-1.8%
宣言5	13	わたしは、行事や暗唱に向けて、一生懸命取り組んでいる。	91.7%	92.6%	+0.9%
	14	わたしは、病気やけがに気を付けて生活している。	92.5%	92.9%	+0.4%
	15	わたしは、交通安全に気を付けて生活している。	97.1%	95.6%	-1.5%
	16	わたしは、進んで運動したり、外で遊んだりしている。	76.3%	72.5%	-3.8%
	17	わたしは、お世話になっている保護者や地域ボランティアの方に進んで挨拶をしている。	90.8%	90.6%	-0.2%

<アンケート結果 (児童) を受けて>

- 広沢っ子宣言3「わたしは、勉強が楽しい」の数値が昨年度に比べて3.6%上昇しました。これは、今年度「かいけつする力」の育成を学校運営の重点項目として、ICT機器を活用して個別最適な学習と協働的な学習の一体化を図った授業改善に積極的に取り組んできたことにより、子供たちの学びに対する意識が少しずつ変わってきたことの表れであると考えます。
- 広沢っ子宣言1「わたしは、学校のために進んで清掃や委員会活動に取り組んでいる。」の数値が昨年度に比べて、7%上昇しました。決められた掃除の時間は、週1回だけですが、休み時間に進んで清掃活動をする子が増えました。
- 広沢っ子宣言1「わたしは、家族や友達、先生に進んで気持ちのよい挨拶をしている」の数値が昨年度の比べて1.6%下降し、肯定的な回答の児童が90%を下回ってしまいました。挨拶は、相手とのコミュニケーションを図るための基本となりますので、今後も、家庭・地域と連携して取り組んで挨拶の意識を高めていきます。
- 広沢っ子宣言2では、すべての項目で数値が昨年度に比べて下降してしまいました。今後も引き続き、丁寧で温かい言葉をつかう指導を中心に学習や生活、行事などを通して相手を思いやる気持ちを育むようにしていきます。また、「いじめ防止基本法」に基づき、子供の些細な心の変化をも見逃さない「いじめ見逃し0」を目指します。

3 アンケート結果（保護者）

☆保護者の評価

*集計結果は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた数

	番号	設 問	R5	R6	R5との比較
宣言1	1	お子さんは、家族や友達に進んで気持ちのよい挨拶をしている。	87.9%	86.8%	-1.1%
	2	お子さんは、学級や学校のために、進んで清掃や委員会活動（5・6年）に取り組んでいる。	87.2%	93.4%	+6.2%
宣言2	3	お子さんは、友達に思いやりのある言動ができています。	94.8%	95.6%	+0.8%
	4	感動や体験の場が、お子さんの心の成長につながっていると感じる。	99.5%	99.8%	+0.3%
宣言3	5	お子さんは、勉強が楽しいと感じている。	74.6%	74.8%	+0.2%
	6	お子さんは、授業が分かりやすいと感じている。	89.8%	86.6%	-3.2%
	7	お子さんは、クロムブックを活用した授業をしていると話をしている。	83.9%	88.8%	+4.9%
	8	お子さんは、計画的に家庭学習に取り組んでいる。		71.0%	
宣言4	9	お子さんは、自分の目標に向けて粘り強く取り組んでいる。	84.6%	80.7%	-3.9%
	10	お子さんは、自分にはよいところがあると感じている。	91.2%	94.9%	+3.7%
宣言5	11	お子さんは、健康に気を付けて生活している。	92.9%	92.2%	-0.7%
	12	お子さんは、交通安全に気を付けている。	95.5%	97.3%	+1.8%
	13	お子さんは、進んで運動したり、外で遊んだりしている。	76.0%	73.9%	-2.1%
その他	14	学校は、積極的に情報を発信している。（各種たより・ホームページ・授業公開等）	97.2%	97.5%	+0.3%
	15	学校は、家庭と連携して教育活動にあたっている。（三者面談や学級懇談会、教育相談日の設定等）	98.6%	97.0%	-1.6%
	16	学校は、地域の教育資源（施設や人材）を生かすことで、子供の豊かな教育につながっている。	95.5%	94.1%	-1.4%

<保護者の皆様からの主な御意見>

◎家庭学習について

- ・家庭学習においては、本人の意思でチャレンジできるところがすばらしい。授業やテストと連動して、さらに学習を深める様子が出てきた。
- ・家庭学習が自分で計画を立てるスタイルに変更になったが、自分できちんと計画立ててできる子は自主性や計画性、達成感も養われてよいと思うが、そうでない子は、どんどん周りから遅れてしまうのではないかと懸念している。
- ・自主学習について、どんな取り組みをしているのか、共有できるとよい。

◎音楽会について

○「勉強が楽しい」と感じる児童が増え、主体的に学びに向かう姿勢が育ちつつあります。その一方で今年度から家庭学習の方法が変わり、戸惑いや不安に感じた保護者もいらっしやった。家庭学習の意義や子供たちに身に付けたい資質・能力について丁寧に説明したり、保護者と連携して取り組み具体的な方法を考えたりしていきます。

- ・音楽会に両親で参加できるようにしてほしい。子供の成長を2人でみたい。
- ・音楽会は、我が子の学年だけでなく、他の学年も鑑賞したい。昔のように観客席に近い自校の体育館で十分だと思います。

○会場の座席数が限られていますが、来年度の音楽会も音響効果の高い中で、保護者の方に子供たちの成長を見ていただきたく、浜松市立高校の講堂をお借りして開催します。ただ、参観できる人数やあり方については、PTAと連携しながら今後検討していきます。

◎体力向上について

- ・部活動がなくなってしまうのが残念でならない。学年を超えて一緒にスポーツに取り組めた時間がよい経験となり、自信と成長につながった。
- ・もっと外遊びができるようにさせてほしい。休み時間も室内にすることが多いように思う。

○部活動が廃止され、どのように運動量を確保していくのが課題となります。来年度も休み時間が削られてしまう特日課をなるべく減らし、外遊びができる時間を確保します。また、継続して運動ができるように、マラソンカードや縄跳びカード等を活用しながら体を動かすことに楽しさを子供たちに伝えていきたいと思えます。

4 職員の評価

- 個別最適な学びと振り返りを進めてきたことで、子供たちが自ら学ぼうとする姿や助け合い・協力する姿、学びを調整する姿が見られるようになってきた。
- キャリア教育で育てたい（かいけつする力）を意識して学習や行事に取り組むことができた。
- 行事に対して自らの目標をもち、それを意識しながら練習に取り組めた。行事後もこれまでの過程を振り返ることで、次への目標につなげることができた。
- 学校や学級のために掃除や環境整備、委員会活動などが行える児童が増えている。人のために役にたっているという達成感を感じ取らせたい。
- 昨年度に比べ、「進んで掃除や委員会活動に取り組んでいる」と回答した児童が7%増加した。高学年は、自覚をもって委員会活動ができていたと考えられる。6年生の「広沢プロジェクト」も効果的だったかもしれない。
- 互いに個性を認めたり、困っている友達を助けたりすることができる児童が多い。
- 廊下歩行、教室での過ごし方の意識を高めたい。けがの予防と絡めながら発信していく方法を具体的に考えたい。
- 今以上に ICT の活用が求められる。教師も ICT 技術や活用について日々研修をしなければならない。
- 家庭学習への取り組み方と保護者への協力や情報共有の仕方を再度検討し、自分が身に付けるべき力を自分で考える意識をその重要性について考えられる機会をもちたい。
- 挨拶をすると返してくれる子が以前よりも増えているが、すれ違っても挨拶しない児童や目を合わせなかったり、声が小さかったりする児童がいる。
- 相手の気持ちを気遣った温かい言葉遣いを学んでいけるとよい。きつい言い方でトラブルになっている。

5 今後の改善方策

目指す学校の姿 「大好き広沢 ～みんなの笑顔があふれる学校～」

子供も職員も信頼し合い、幸せを感じて笑顔で生活し、わくわくした前向きな気持ちが、保護者や地域の方々にも伝わり、つい笑顔がこぼれてしまうような教育活動を推進する。そのために、キャリア教育と広沢っ子宣言との関連を図りながら、自分らしく生きていくための基礎的・汎用的能力を育てていく。

【重点1】「かいけつする力」（課題対応能力）の育成

- 「勉強が楽しい」と感じる子を増やす。ICT 機器（タブレット端末機）を積極的に活用して、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」を図った授業づくりに取り組み、主体的に学習に取り組む子を育てる。
- 学校の授業と連動して、自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことができるに支援をする。また、家庭学習のあり方について、保護者と共有する方法を工夫する。

【重点2】「かかわる力」（人間関係・社会形成能力）の育成

- 子供が気持ちよく生活できるように、挨拶や温かい言葉遣いの大切さについて、さまざまな方法を工夫して根気強く指導する。
- 学校が子供にとって安心できる場所になるために、多様性を認め合い、より良い人間関係を構築する。そのために構成的エンカウンターやピア・サポートの取組、いじめの未然防止、早期発見、組織的対応に取り組む。
- 学校運営協議会のサポートにより、学校支援活動や地域人材の確保、「広沢小見守り隊」の取組を推進する。

6 学校運営協議会による学校関係者評価

令和7年度 学校運営方針の概要(案)

1 学校教育目標

「共に輝き 未来を拓く子」

■「共に輝き」…多様性を尊重し互いの良さを発揮しながら協働しようとする精神

自他の違いを価値あるものとして受け止め、他者の考えや感じ方に共感し、目標に向かって協力し合い、時には切磋琢磨しながら自己実現を図っていく力を身に付けさせたい。

■「未来を拓く」…夢に向かってリスクを恐れず新しい価値の創造に向かってチャレンジする精神

困難な出来事に出会っても決してあきらめることなく、最後まで努力し続け、前進しようとするたくましさ身に付けさせたい。

広沢っ子宣言とキャリア教育で育てたい資質・能力を関連させた学校運営をし、令和6年度は「かいけつする力」に重点を置いて教育活動に取り組んだ結果、これまで数年にわたって下降傾向にあった「勉強が楽しいと感じる子」の数値が3年ぶりに増え、主体的に学びに向かう姿勢が育ちつつある。めあてに向かって計画的に取り組む、そして、自己の学びを振り返る活動の繰り返しにより、学ぶ意義や将来に向けて見通しをもったり、自分自身のよさに気付いたりしている子も多く見られている。

保護者は大変協力的で、学校での学習に対する関心や期待が高い上に、家庭学習の取組に対する意識も高い。令和6年度からの取組に肯定的な意見がある反面、「宿題を出してほしい」というご意見が多く聞かれる。そのため、今後一層丁寧な説明をして、保護者と家庭学習の在り方を共有し理解を深める方法を工夫していく必要がある。

全国学力・学習状況調査の結果からは、能力が高く学習内容が身に付いている子が多いことが分かる。学ぶ意義や勉強の楽しさを感じている子が増えてきているので、今後も、子供に付けたい資質・能力、新たな学力観、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図った授業のイメージ等を、教職員と子供だけでなく、保護者ともに共有し、学校と家庭が連携して教育活動に取り組んでいくことが大切である。

そこで、令和7年度も昨年度に引き続き、広沢っ子宣言とキャリア教育で育てたい基礎的・汎用的能力との関連を図りながら、特に、課題対応能力「かいけつする力」に重点を置いて、教育活動を展開していきたい。

次に、学校評価アンケートの結果では、「家族や友達、先生に進んで気持ちのよい挨拶をしている」と肯定的に答えた児童の数値が、昨年度との比較で、-1.6%で、89.9%であった。委員会や高学年の子供を中心に、校内に挨拶の声を響かせるように頑張っている姿がたくさん見られ、自分から進んで挨拶をすることができる子が増えてきてはいるが、自分と関わりのない大人とすれ

違ったときの挨拶に課題があるように思われる。また、丁寧で温かい言葉遣いについては、前年度との比較で-5.0%であった。また、言葉の暴力により友達とのトラブルが生じたり、友達との関わることに苦手(集団が苦手)さを感じて登校渋りを起こしたりしている子もいる。そこで、人とのコミュニケーションを図るときの基本として、進んで挨拶することや温かい言葉遣いをするに粘り強く取り組んでいきたいと考える。

そこで、今年度も、「かかわる力」に重点をおいて、子供の人間関係・社会形成能力を育てていきたい。

2 目指す学校像

「大好き広沢 ～みんなの笑顔があふれる学校～」

友達大好き、先生大好き、勉強
大好き、学校大好き ……

子供も、親も、先生も、
地域の方も ……

(1) 多様性を尊重し、一人一人を大切にされた学校(子供のウェルビーイングの向上)

広沢小学校は、年間の転出入児童が多い市内でも希少な学校である。県外からの転入以外にも、外国で暮らして現地や日本人学校に在籍していた経歴をもつ児童が非常に多い。子供たちは、それぞれ豊かな個性をもっており、広沢小学校では、この個性の違いを価値あるものとして認め合う教育を目指している。勉強や運動が得意な子もいれば不得意な子もいる。また、人付き合いが上手な子もいれば苦手な子もいる。全ての子供を認め励まし、子供が安心して自己実現を図ることができるよう一人一人を大きく包み込む「懐の深い教育」を目指す。広沢っ子の、他を快く受け入れ親切にできるといったよさを、さらに引き出すことができたらよい。**(多様性と包摂性)**

発達支援学級は、開設5年目を迎え、その認知やニーズが高まっている。在籍児童数は、増え続け、開設以来最大数となる。学級数も1学級増の4学級となる。今後も一人一人の子供に応じた教育計画を工夫することに加え、通常学級の児童との積極的な交流活動をすることにより、互いの存在を認め合う子供の育成を図っていく。発達支援教育の理念は、全ての教育の原点であり、子供のウェルビーイングにつながるものである。

(2) 教職員が働きがいのある学校(教職員のウェルビーイングの向上)

教職という仕事は、子供の成長を間近で感じることができ、喜びや達成感を仲間とともに味わうことができる働きがいのある仕事である。明るく活力のある学校づくりをするためには、子供と関わる教職員自らも元気で明るく、自分らしさを発揮して働いていることが大切である。教職員一人一人が勤務時間を自己管理し、余暇を楽しんだり、学校以外の人とのつながりをもったりする等、ワークライフバランスのとれた生活に心掛けることができるような声掛けをしていく。困ったときには一人で悩まず、日々の様々な問題に対して情報共有をし、学年体制、または学校体制で課題解決を図るチームワークが大切である。誰一人として教職員が孤立しない学校づくりを目指し、教職員

のウェルビーイングを向上させていきたい。

近年は、学校だけでは解決できない事案も発生しているので、そんなときには、SCやSSW、医療機関等外部の専門機関と連携を取るなど体制づくりも必要である。教師が子供と向き合う時間、明日の授業のための教材研究をする時間を確保するために、教育の情報化やペーパーレス化、業務の見直しや会議の効率化等、多忙化解消に向けた取組を推進していく。

(3) 子供が安心して通える学校

学校が子供にとって安心できる場所になるためには、子供同士、教職員と子供との人間関係が良好であることが大切である。友達への心ない言葉や態度が人の心を傷つけ、ときには、いじめにつながることの指導を丁寧に行うとともに、些細な子供の心の変容に気付くことができるように心掛け、いじめの早期発見・早期対応に努める。「いじめ防止基本方針」を教職員と保護者で共有し、「いじめ見逃し0」を目指す。

令和5年度に新設された「校内まなびの教室」は、不登校や登校渋りの子供にとって安心して学ぶことできる居場所としての機能を十分に果たしている。今後も、子供の居場所の選択肢の一つとして重要な機能を果たしていくことが期待される。

(4) 地域を愛する心と進取の精神(アントレプレナーシップ)に満ちあふれた学校

生活科の「まちたんけん」の学習や中学年の総合的な学習の時間をとおして、自分たちが住んでいる町に愛着をもち、地域のよさに気付かせる教育の場を設定していく。愛校心や地域を愛する心を育みながら、主体的に学習に取り組むことができる子供の育成を図っていく。

自分たちが大切にしている校歌の2番の歌詞に刻まれた進取の精神は、伝統的に引き継がれて生きている。この進取の精神とは、これからの予測困難な社会においても、自ら目標を設定して、周りの人と協働しながら課題を解決していく力と押さえている。高学年の総合的な学習の時間においては、これらの力が身に付くように、外部人材を招聘した学習を行う。広沢地区は、市内有数の文教地区であり、数ある教育施設と連携して質の高い体験の教育活動(例:静大工学部でのプログラミング体験、「オクトーバープロジェクト」等)を展開することができる。また、地域には、医療従事者、法曹関係者、企業経営者等の様々な分野で活躍している保護者等の人的教育資源も豊富である。これからも、広沢小ならではのキャリア教育を推進し、学校運営協議会と連携して貴重な教育資源とのつながりを保っていきたい。

(5) 家庭・地域と連携し、共に歩む学校

教職員一人一人が教育公務員であるという自覚をもち、子供に対する不適切な言動や不祥事の根絶に努め、保護者や地域からの信頼を失わない努力をしていく。

子供の育成には生活基盤である家庭(保護者)との密な連携を欠かすことはできない。三者面談、教育相談日の機会をとおして、保護者の声に耳を傾け真摯に対応する態度で接する。また、日々の連絡や学校だより・学年だより、学校ホームページ、さくら連絡網等を活用して、子供のよさを積極的に発信するように心掛け、保護者との信頼関係づくりにも励んでいく。

地域との連携では、設立6年目を迎える学校運営協議会が我々の心強い存在となっている。学校経営方針に関する熟議と承認、学校における諸問題に対する熟議を充実させて、これから

もコミュニティ・スクール推進を図っていく。学校運営協議会の取組を地域住民に発信する方法や、管理職と担当だけではなく他の教職員が学校運営協議会とどのような関わりをもつかについては、課題が残されている。

3 重点目標

(1) 広沢っ子宣言

「広沢っ子宣言」とキャリア教育で育てたい基礎的・汎用的能力とを関連させて取り組む。

【広沢っ子宣言】

- 1 笑顔で気持ちのよいあいさつをし、マナーを守って行動します
- 2 相手を思いやり、友だちにやさしくします
- 3 自分の夢をかなえるために、進んで勉強します
- 4 チャレンジしたことを最後までやり抜きます
- 5 命を大切にし、健康や安全に気をつけて生活します

※ 「広沢っ子宣言」が、絵に描いた餅にならないよう、下位項目にまで落とし込んだ繰り返しの指導に心掛ける。

(2) 重点目標及び具体的な手立て

① 自分から進んで挨拶をする子 90%

＜広沢っ子宣言1 キャリアの視点：「かかわる力」(人間関係・社会形成能力)＞

② 友達に「ありがとう」と言える子 90%

＜広沢っ子宣言2 キャリアの視点：「かかわる力」(人間関係・社会形成能力)＞

③ 勉強が楽しい子 85%

＜広沢っ子宣言3 キャリアの視点：「かいけつする力」(課題対応能力)＞

④ 目標に向かって頑張る子 90%

＜広沢っ子宣言4 キャリアの視点：「やりぬく力」(自己理解・自己管理能力)＞

⑤ 病気やけがに気を付けて生活する子 90%

＜広沢っ子宣言5 キャリアの視点：「かいけつする力」(課題対応能力)＞

※ これまでの経緯から、目標値は、90%が妥当だと考えました。

＜本年度の目標＞

- ・今年度の重点として、広沢小の子供たちに付けたい力である課題対応能力の育成に向けて、一緒になって取組を考えていきたい。
- ・コミュニティ・スクールの具体的な取組を地域に発信し、充実した活動を行うための人材発掘の強化を続けていく。教師のサポートに地域人材を活用することで、教師の働き方改革を図っていく。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 校長から令和6年度学校運営の基本方針について説明があり、委員全員が異議なく承認し、学校の教育目標や課題を共有することができた。
- 学校創立90周年記念を踏まえて、グランドデザインが作成されており、広沢小の学校教育目標が分かりやすい言葉と具体的なデザインで表されていて、協議会委員全員が教育目標と目指す学校像を理解し熟議することができた。
- 今年度重点的に取り組む「かいけつする力」の育成や「主体的で楽しい学び」について理解し、熟議することができた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 校外学習の場を提供していただいている団体・事業者やクラブ活動における方々など、地域の教育的資源を発掘し、継続させていく取組みについて熟議をすることができた。
- 学校運営協議会委員が読み聞かせボランティアや図書館ボランティア、大掃除ボランティアに参加し、委員自ら絵本を通して子供たちとの時間を共有し、交流を図ったり、図書室や教室の環境整備の支援をしたりして、学校の現状を把握することができた。これを熟議する際の参考にしていきたい。
- 広沢小見守り隊のあり方や地域の方々との関わり方について熟議をすることができた。
- 「広沢小学校いじめ防止基本方針」の具体的な取組みについての説明やICTを活用した個別最適な学びの授業参観などを通して、子供たちの「かかわる力」や「かいけつする力」の育成を実施していることを認識し、熟議を進めることができた。
- 管理職や担当だけでなく、教職員も会に参加し、委員と一緒に熟議をすることに挑戦できた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- CSだよりや学校だより「くすのき」、ホームページ等において、協議会の様子や結果について情報発信していた。
- 所属する自治会の役員会、地区社協の会合等の活動の場で協議会の情報発信を行った。
- 地域に対しての発信が十分かと言えば、多少疑問がある。広沢小学校を地域全体でよりよくしていくためには、情報の発信の仕方や内容、発信先も検討していくべきだと感じる。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- クラブ活動や音楽部の地域移行等、継続して地域人材の活用について熟議していく必要がある。
- 定着しつつある広沢小見守り隊の認知度を一層高め、持続可能な取組みになるように、さらなる地域との連携を図っていく。
- 外部への発信に加え、教職員の学校運営協議会に対する理解を深めるために、参加の仕方や会への関わり方を工夫する。